

Thème 1

**フランス語単語練習 WEB ページ  
「フラ単」を用いた授業運営について**  
**Comment utiliser dans les cours le *Fra-tan*,  
page WEB pour apprendre le vocabulaire français**

廣田 大地  
**HIROTA Daichi**  
Université de Kobe  
hirotadaichi@kobe-u.ac.jp

1. はじめに

近年、CALL 教室を初めとした大学等の教育機関における ICT 設備は様々な活動を行う上でも相当充実してきたように思われる。とはいえ、日本におけるフランス語教育に関しては、その設備を十分に活用できるような教育システムが確立しているとはまだまだ言い難いだろう。さらにはスマートフォンの普及により、学生たちはパソコンよりもスマートフォンの使用に習熟しているという新たな状況も生まれている。そのような現状のもと、授業時間外における学習者の自主学習を促す手段として、筆者は 2012 年よりフランス語の語彙習得のための WEB ページを作成し、改良を加えつつ、神戸大学にて自身が担当するフランス語授業において活用してきた。以下に、この WEB ページ「フラ単」についての解説と、その授業における利用方法を記していきたい。

2. 「フラ単」の使用環境について

フランス語語彙習得用 WEB ページ「フラ単」は、大学での第二外国語履修者のようなフランス語初修者を対象とし、大学の CALL 教室、自宅のパソコン、個人スマートフォンという異なる環境でも同じように利用することができる無料 WEB コンテンツとして開発してきた。日本におけるフランス語学習のための ICT コンテンツとしては、既に CALL 教室用、自宅パソコン用、スマートフォン用（アプリ）という使用環境別には様々なものが開発されているが、多くの場合、それぞれの使用環境以外では利用することができない、もしくは利用できても操作に難があるという問題がある。しかしながら、CALL 教室で教員がコンテンツを紹介し、それを学習者が自宅パソコンで練習し、さらには自分のスマートフォンでも活用してもらうためには、使用環境を選ばないコンテンツが必要である。また、実際に学習効果が高く、学習者のモチベーションを引き出すことができるほどの使いやすいインターフェイスを備えたコンテンツは、ほぼ総てが有料であり、大学の授業での導入が難しい。そのような必要性から作られたのが、使用環境を選ばない無料 WEB ページとしての「フラ単」である。

3. 「フラ単」の学習内容

大学一年生を主な対象としていることもあり、「フラ単」で学習することができるのは、フランス語検定の基準で言うところの 5 級および 4 級に相当する語彙である。5 級レベルの単語として、フランス語の中でも最も基本的な 418 語を用意し、

さらに4級レベルとして339語を付け加えてある。これらの単語は、5級と4級のレベルに分けられただけでなく、「名詞(家族)」「名詞(場所)」「疑問詞・前置詞」「副詞2」のようなカテゴリに分けられており、各カテゴリは15~30語程度の単語で構成されている。

学習者は38のカテゴリの中から学習するものを1つ、または複数選択し、クイズ形式での学習を開始する。選択カテゴリに含まれる単語からランダムに問題が出題され、対応する日本語の表示とともに、正解となるフランス語の音声流れる。学習者は、この2つのヒントを手掛かりに、正解となるフランス語の綴りを入力する。正解した場合には画面が黄色くなるが、不正解の場合には画面が灰色になり、画面右側のリストに不正解だった単語として蓄積されていく。不正解だった単語は、正解するまでまたランダムに出題される。

ちなみに、フランス語の音声は、無料のTextToSpeech(自動音声作成)ツールを用いて作成している。ただし、パソコンやスマートフォンに実装されているTextToSpeech機能は、各デバイスにより性質が異なったり、僅かではあるが誤った発音で読み上げたりすることがある。そのため、TextToSpeechを用いつつも、それを音声ファイルとしてサーバに保存し、学習時にそれをダウンロードして再生するという手法を採っている。

#### 4. 「フラ単」の操作性

パソコンやスマートフォンの操作に習熟した近年の若者を対象としたコンテンツを開発する場合、操作性に負担を感じさせないことが重要となる。インターフェイスの充実したゲームやツールが当たり前になっている者にとって、操作のしにくさはストレスに直結し、学習の継続を妨げる要因となる。学習者が「フラ単」に初めて触れると想定しているのは、大学におけるCALL教室であり、とりわけその際の操作性を重視して開発を行った。

「フラ単」を開発する上での基盤となっているのが、大阪大学の岩根久氏が開発し公開している「活用虎の穴」である<sup>1</sup>。ランダムに出題される人称代名詞に合わせて動詞を活用させて入力するのが学習内容となっている。2000年から公開されており、すでに15年が経っているため、今日においては視覚的に少し簡素すぎる印象があるが、純粋な操作性については優れており、CALL教室において学生が使用する際、マウスを使わずにキーボードだけでも大部分の操作が可能となっている。大学のCALL教室の欠点として、学生一人あたりのスペースが狭いため、マウスとキーボードを同時に使いづらいという点がある。マウスのみを使う選択も考えられるが、フランス語の綴りを正しく入力することを学習内容とする場合、キーボードの使用が望ましく、従ってマウスを使わないことが操作性を高める上で重要となる。

「フラ単」においても、岩根氏による「活用虎の穴」のシンプルな入力方法をさらに推し進め、完全にマウスを必要としない入力システムを構築している。学習者はフランス語の単語をキーボードで入力し、答え合わせに移る際には「Enter」キーを押す。続いて、正解でも不正解でも次の問題に進むには、さらに「Enter」を押す。アクセント記号付きアルファベットを入力するには「Tab」キーを複数回押し、フォーカスが該当文字にまで移った時点で「Enter」を押す。以上の単純な操作で問題をこなしていくことができるため、学習者は学習内容であるフランス語の

---

<sup>1</sup>岩根久, 「「活用虎の穴」開設 10 年に事寄せて」『e-Learning 教育研究』, 5 号, 2010, pp. 40-43 ([<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009832667>]) 参照。

綴りそのものに集中することができるようになっている。また、入力を迅速に行うことができるため、入力速度そのものの向上を学習者が楽しむことができ、モチベーションの維持にも繋がる。

## 5. スマートフォンへの対応

筆者が対象として念頭に置いている 18~20 歳の大学生の中にも、自身のノートパソコンを所有し、キーボードを用いた作業に慣れた者と、ノートパソコンを所有していない、あるいは所有しているがあまり使わずに、スマートフォンでの入力作業を好む者がいる。2つの媒体を比較すると、最終的にはパソコンでの文章入力に習熟することが将来のためにも有益であると思われるが、パソコンにまだまだ不慣れな学生に対してフランス語学習への第一歩を促すためにも、スマートフォンへの対応は不可欠である。また、通学時間等の短い時間を利用して、フランス語の学習を行えるようにするという点でも重要である。

スマートフォンへの対応のために、別のアプリを作成したり、別の WEB ページを作成したりすることは、学習者の混乱を招き、結果として学習が持続しない恐れがある。そのため、同一の WEB ページではありつつも、表示ブラウザの横幅に応じて異なる CSS を適用させることで、スマートフォンの画面サイズに合わせた表示を可能にしている。スマートフォン使用時には、「Enter」「Tab」キーの代わりに、画面上のボタンのタップを中心に問題に答えていく。



現時点では、音声ファイルの容量がやや大きいため、出題時に音声を聞く場合には、スマートフォンでの使用の際、Wi-fi 接続で使用するのが無難である。ただし、音声無しで使用するのであれば、一度ページを読み込んでしまえばオフラインでも使用することが出来る。

## 6. 多様なオプション

授業や個人での使用における様々な使い方を可能にするため、「フラ単」には幾つかのオプション機能を持たせてある。以下に箇条書きで記しておく。

- ・【音声選択スイッチ】 「音声」ボタンの右側に 2 つあり、左側は問題出題時、右側は問題解答時の音声を出力するかどうかを選択する。
- ・【ヒントボタン】 クリックするたびに単語の正解綴りを 1 文字ずつヒントとして表示する。ただしヒントボタンで単語の総ての綴りを表示させてしまった際には

不正解扱いとなる。

・【単語表ボタン】 現在選択されているカテゴリに含まれる全単語とその対応する日本語とのリストを別ウィンドウにてカテゴリごとに表示する。ABC 順に並べ替えることも可能であり、全カテゴリを選択した上で単語表を表示し ABC 順にすると簡易仏和辞書としても使用できる。

・【「不正解リスト」カテゴリ】 選択して「開始」ボタンを押すと、「不正解リスト」に蓄積されている単語を練習問題に加えることができる。

## 7. 授業での活用方法

CALL 教室での一斉使用時や、課題として学生にメール等で指示を出す際、学生がカテゴリの指定に手間取ったり、範囲を間違えたりする恐れがある。そこで、「フラ単」では url の末尾に数字を付け加えることで、特定のカテゴリを選択した状態で WEB ページを開けるように設定してある。具体的には、url の「~vocabulary.html」の後に、例えば「?0,1,2,3」と付け加えると、「名詞 (自然)」「名詞 (家族)」「名詞 (人・衣服)」「名詞 (食事)」の 4 つのカテゴリのみチェックが入った状態で画面が始まる。さらには、「~vocabulary.html?22,23?0」のように、カテゴリ番号の後に、「?0」「?1」「?2」「?3」と付けると、音声無し、出題時のみ有り、解答後のみ有り、どちらも有り、としてあらかじめチェックが入った状態で画面が始まる。「フラ単」のこの機能と、CALL システムにおける特定 url を学生パソコンで一斉に立ち上げる機能を組み合わせることにより、同一条件で「フラ単」を開始し、例えば 5 分間の間に指定されたカテゴリの問題を出来るだけ多く答えるというコンクールを授業の一環として行うことができる。

## 8. アクセス

「フラ単」は[<http://www.litterature.jp/numerique/vocabulary.html>]において公開している。Google などの検索サイトでも、「フラ単」と入力するだけで検索上位に表示される。また、スマートフォンであれば、右の QR コードからもアクセス可能である。

